

## ウクライナの安保は交渉でしか達成できない

ジェフリー・サックス

2024 年 2 月 4 日

原題「バイデンとシューマーのウクライナ人殺害計画」

<https://www.jeffsachs.org/newspaper-articles/4xn8bew8gh25ygbt5d8d2a5s5tplex>

(バイデン政権が議会に承認を求めているウクライナ援助の) 610 億ドルは、戦争を長引かせ、何万人もの死者を出し、ウクライナを物理的に破壊する以外、戦場では何の変化ももたらさない。

ジョー・バイデン大統領は、ウクライナ人の命とアメリカ国民の税金を賭けて、負けを認めることを拒否している。バイデンと民主党のチャック・シューマー上院院内総務は、バイデンの悲惨な外交政策の失敗を 11 月の選挙が終わるまで隠しておくために、さらに何万人ものウクライナ人の命と 610 億ドルの連邦資金を浪費することを提案している。

この 610 億ドルは、戦争を長引かせ、何万人もの死者を出し、ウクライナを物理的に破壊する以外、戦場では何の変化ももたらさないだろう。ウクライナを「救う」ことはできない。ウクライナの安全保障は交渉の場でしか達成できないのであって、ロシアに対する想像上の軍事的勝利によって達成できるものではない。

610 億ドルは、なんでもないということではない。労働省、環境保護庁、国立科学財団、女性・乳幼児・児童栄養プログラムの予算を合わせた額を上回る。

ほぼ、ちょうど 10 年前の今月、バイデンはウクライナを破滅への道に導くために多くのことを行った。このことは、事実を注意深く見てきた人々にはよく知られているが、ホワイトハウス、上院民主党、そしてバイデンを支持する主流メディアによって隠されている。私は以前、ハイパーリンク付きの詳細な年表をここに掲載した。

1990 年、ジョージ・H・W・ブッシュ・シニア大統領とドイツのヘルムート・コール首相は、ソ連のミハイル・ゴルバチョフ大統領に、ソ連がドイツ再統一を受け入れれば NATO は東へ拡大しないと約束した。1991 年 12 月にソ連が解体し、ロシアが後継国になると、アメリカの指導者たちはそれを反故にすることを決めた。

ビル・クリントン大統領は、ジョージ・ケナンのような一流の外交官やウィリアム・ペリー国防長官の猛烈な反対を押し切って、NATO の拡張を開始した。1997 年、ズビグニュー・ブレジンスキーは、NATO をウクライナまで拡大する計画を打ち出した。彼は、ウクライナがなければロシアは大国でなくなると書いたことで有名だ。

ロシアの指導者たちは、NATO のウクライナへの拡大は、当然のことながらロシアのレッドライン中のレッドラインであることを繰り返し明らかにしてきた。2007 年、ウラジーミル・プーチン大統領は、それまでの NATO 拡大は 1990 年の約束を反故にするものであり、これ以上拡大してはならないと述べた。自らの外交官を含むこうした明確な警告にもかかわらず、ジョージ・W・ブッシュ・ジュニアは 2008 年、黒海でロシアを包囲するため、NATO をウクライナとグルジアまで拡大することを約束した。

現 CIA 長官で、当時駐ロシア米大使だったウィリアム・バーンズは、「ニエットは、ニエットを意味する」と題する有名なメモを書き、NATO 拡大に対す

るロシアの反対は、ロシアの政治的領域を越えたものであったと説明した。ウクライナ国民の多くも NATO 加盟よりも中立を支持し、この計画に断固反対していた。ウクライナ議会は1990年、「永世中立国」になることを前提に、ウクライナが主権国家であることを宣言した。2009年、ウクライナ国民は、中立を掲げて立候補したヴィクトル・ヤヌコヴィッチを選出した。

2014年初頭、アメリカは、ヤヌコビッチをクーデターで崩壊させる手助けをすることを決定した。これは米国のディープステート（深層国家）の標準的な活動手順であり、世界中で何十回となく行われてきた。CIA、全米民主化基金、USAID、そしてオープン・ソサエティ財団のような NGO が、ウクライナで活動した。中心人物はヴィクトリア・ヌーランドで、最初はリチャード・チェイニーの首席外交政策副顧問、ジョージ・ブッシュ・ジュニアの NATO 大使、ヒラリー・クリントンの報道官、そして2014年には国務次官補となった。

今回、ロシア側は、ヌーランドとジェフリー・パイアット駐ウクライナ米大使（現国務次官補）の通話を傍受し、その陰謀をテープに収めた。ヌーランドはパイアットに、ジョー・バイデン副大統領がクーデター後の政権を選び、固める手助けをすると説明している。バイデン、ヌーランド、ジェイク・サリバン（当時、現バイデンの国家安全保障顧問）、ジェフリー・パイアット、アントニー・ブリンケン（当時国家安全保障副顧問）を含む2014年のウクライナチームは、現在もウクライナチームのままだ。

それは不器用なチームだ。彼らは、ヤヌコビッチ政権が崩壊すると考えていた。彼らは、ヤヌコビッチの打倒が NATO の拡大をすぐにもたらすと考えていた。それどころか、ウクライナのロシア系民族は、ヌーランドによって樹立されたクーデター後のロシア恐怖症政権を激しく拒否し、ロシア系民族の地域の自治を求めた。クリミアは住民投票で圧倒的多数でロシアへの加盟を決めた。

オバマ、バイデン、そして彼らのチームは、クーデター後の政府を武装させ、民族的にロシア的な地域を攻撃させた。しかし、地域は抵抗した。ウクライナ

と分離独立地域はミンスク協定に調印し、戦闘を終結させ、民族的にロシア的なドンバスに憲法上の自治権を与えた。ミンスク第2合意は国連安全保障理事会によって支持されたが、アメリカはウクライナ政府と内々に合意し、無視しても構わないとした。

2021年、ドンバスでの7年にわたる戦闘と14,000人以上の死者を受け、プーチンは新たに選出されたバイデン大統領に対し、NATOの拡大を止め、相互の安全保障の取り決めについてロシアと交渉するよう求めた。バイデンは、ウクライナへのNATO拡大の策動を止めるようとのプーチンの呼びかけを拒否した。

2022年2月、プーチンはウクライナを交渉のテーブルにつかせるため、特別軍事作戦(SMO)侵攻を開始した。ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は直ちに、ウクライナの中立性に基づく交渉を求めた。1カ月も経たないうちに、ウクライナの中立性とNATOのウクライナへの拡大停止に基づき、ウクライナとロシアの間で戦闘を終結させる枠組み合意が成立した。バイデンはこの合意を阻止するために介入し、アメリカは中立を支持しないとゼレンスキーに通告した。

バイデンとそのチームには、さらに失敗したトリックがあった。米国の金融制裁がロシアの資産を凍結し、SWIFT(外貨取引)か銀行システムから切り離すことで、ロシア経済を麻痺させ、プーチンを屈服させることができると固く信じていたのだ。実際、それに伴う経済危機によってプーチンが倒れると期待されていた。もちろん、そのようなことは何も起こらなかった。

そして、彼らは、NATOの兵器が戦場でロシアを打ち負かすと期待した。それも実現しなかった。そして、2023年夏のウクライナの「反攻」が、国防総省とCIAの立案者の支援を受け、ロシアを打ち負かすと期待した。しかし、その代わりに、ウクライナは何十万人もの兵士の死傷者を出し、軍事的機器は破壊された。

ウクライナの領土を失い、何十万人ものウクライナ人犠牲者を出し、1,000 億ドル以上のアメリカ国民の税金を無駄遣いしたこの全面戦争は、簡単に回避できたはずだ。

今、バイデンとシューマーは、この明らかな失敗に、さらに多くのウクライナ人の命と数百億ドルを投じようとしている。議会はおろか国民の監視もなく、公聴会もなく、戦略もなく、急ぎの採決でこれを実行しようとしている。少なくとも 11 月の選挙までには、バイデンをこの 10 年間の愚かな失敗の恥辱から救いたいのだ。

(新藤通弘訳)

## レッドラインをもう少し向こうにしてくれ

アイザック・ローザ

出所：レベリオン

武器、長距離ミサイル、戦車、飛行機を送った後、マクロン大統領が提案した軍隊の派遣は、本当のレッドラインとなるのだろうか。

アナリストたちが繰り返すように、ウクライナ戦争が膠着状態にあり、ラインがほとんど動いていないというのは真実ではない。初日から踊りが止まらない、最も不動のように見えたラインがある。この「レッドライン」は、二年前から語られている。レッドラインである。そのレッドラインは、欧州も米国も NATO も越えたくないレッドラインであり、ロシアが全面的な紛争を避けるために限界として示したレッドラインである。レッドラインを、誰も越えようとしなかったのは、何か良いことをしたからだ。

レッドラインの結果は、2022 年から再三繰り返されてきた。ウクライナは新たな武器を要求し、ロシアはそれが「レッドライン」だと警告し、欧州諸国とアメリカは否定し、疑い、議論し、結局は要求された武器を送ることになる。しかし、結果は出ない。レッドラインは別なものとなり、さらに引き上げられる。

最初の武器の供給を越えると、ロシアは、責任者が後悔するような「上昇スパイラル」だと述べた。その後、別なレッドラインの HIMARS (M142 高機動ロケット) 砲システムもそうだった。モスクワは「予測不可能な結果を伴う紛争のリスクを増大させる」と言ったが、予定通りにキエフに到着した。パトリオット防衛システムもそうだった。ロシアにとっては「エスカレーション」につながる「挑発」だったが、もちろん送られた。ロシアによれば、長距離ミサイルはロシアの国土を攻撃するために使われる可能性があり、「紛争をエスカレート」させ、「米国はレッドラインを越えて直接の当事者になる」というものだった。しかしその後、ミサイルが発射され、ウクライナはクリミア（ロシアはロシアの領土とみなしている）の標的を攻撃したが、何も起こらなかった。

戦車もレッドラインだった。ウクライナは執拗に戦車を要求し、ロシアは「紛争を別のレベルに引き上げる」と警告した。ヨーロッパ諸国はこの問題で意見が分かれ、ドイツはレオパルド戦車の納入に抵抗したが、イギリスは独自にチャレンジャー戦車を発表し、アメリカはエイブラムス戦車を送ると言い、ドイツはついに屈服し、何回目かのレッドラインを越えたか、あるいは、次の階段に進んだのだった。

戦車の次は、飛行機である。このレッドラインは赤というより、非常に赤かった。ロシアは、これを核兵器の使用に匹敵する脅威とみなし、アメリカは F-16 戦闘機の派遣を断固として拒否し、ドイツの首相は「ウクライナへの戦闘機の供与はない」と断言した。その後、フランスは F-16 を検討すると提案し、ポーランドはミグ 29 戦闘機の導入を進め、アメリカは F-16 の導入はしない

が、他国が導入することは妨げないとし、パイロットの訓練まで申し出た。今日、F-16 が到着しようとしているが、新たなレッドラインは、ウクライナの領土外では使用しないというものだ。しかし、今や、レッドラインは、動くものだと思われている。

そして、最後の、すべてのレッドラインの母である軍隊の派遣にたどり着く。マクロン大統領は軽々しく提案したが、スペインをはじめ、ほとんどの国が拒否している。ロシアは、もちろん、その一線を越えれば「宣戦布告」とみなし、「NATO との衝突は避けられない」と述べている。フランスは、交戦国ではなく後方支援部隊であることを明らかにした。これは、レッドラインを今少し向こうに移動させるものである。

私たちは、私たちの政府が越えない、今度こそ本当に赤、さらに赤、真っ赤のレッドラインだと考えているのだろうか、あるいはこれまでと同じように動かされるものと考えているのだろうか。ロシアにとっては赤、さらに赤、真っ赤のレッドラインなのだろうか、それともまたも通過させてしまうのだろうか。あなたがたの心の平安のために、マクロン自身の明確な言葉を残しておこう。

「何も排除されない。今日、『絶対に、絶対に』と言う多くの人々は、2 年前に戦車は絶対に、飛行機は絶対に、長距離ミサイルは絶対にと言った人々と同じだ」。おわかりいただけただろうか？プーチンは、「その結果は悲劇的」であり、「核兵器による紛争と文明の破壊」を引き起こすだろうと答えた。最後に、私たちを安心させるために、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は「戦争のリスクは差し迫ったものではないが、ありえないものではない」と述べている。

このように、私たちは、この戦争が経過して2年になる。ウクライナもロシアも勝つことはできないが、誰が負けるかはわかっているのだ。

(新藤通弘訳)

